

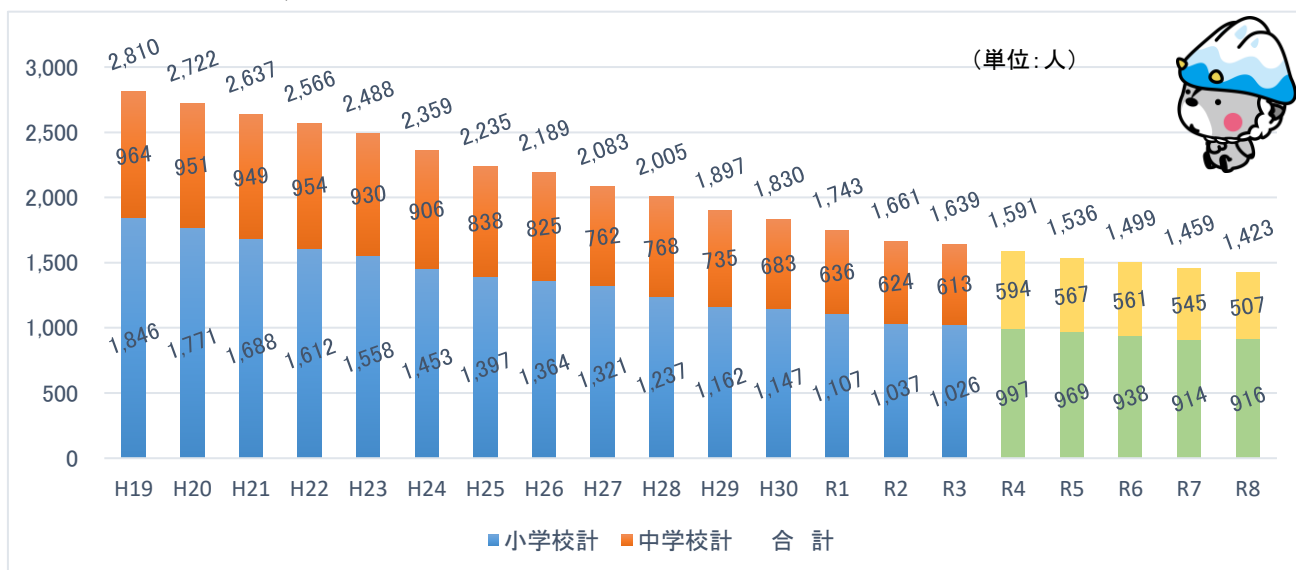
# 大町市学校再編基本計画(案)について

市教育委員会では、通学区再編審議会からの答申（令和3年3月19日）を受けて、答申内容及びあり方検討委員会報告書の提言を踏まえ、定例教育委員会及び総合教育会議等で市全体の学校再編について検討し、市学校再編基本計画（案）を作成しました。

## ◆ 市立学校の現状等

### 1 児童・生徒数の推移

市内の児童・生徒数は、市町村合併後の平成19年度の2,810人が令和3年度には、1,639人と15年間で1,171人減少し、今後もさらに減少していくことが見込まれる。



### 2 施設の状況

旧市内の中学校2校（第一中学校、仁科台中学校）は、大規模改築事業（全面改築）が行われ、施設環境の充実が図られている。一方、旧市内の4小学校（東小学校、西小学校、南小学校、北小学校）は、耐震改修に併せて大規模改造事業や体育館棟の耐震化を行ったものの、校舎の大部分は建築後35年以上が経過しており、給排水設備等の老朽化が進んでいる。

#### (1) 中学校・義務教育学校施設の現況

	一中	仁中	八坂中	美麻小中
校地保有面積	30,515 m <sup>2</sup>	35,375 m <sup>2</sup>	16,169 m <sup>2</sup>	26,394 m <sup>2</sup>
建築年	H17(全面改築)	H21(全面改築)	H10～11	S50～52
主な改修歴	—	—	H27 体育館非構造耐震	H10 普通/特別教室棟耐震補強 H25 体育館非構造耐震

#### (2) 小学校施設の現況

	東小	西小	南小	北小	八坂小
校地保有面積	33,500 m <sup>2</sup>	35,933 m <sup>2</sup>	35,510 m <sup>2</sup>	32,347 m <sup>2</sup>	28,615 m <sup>2</sup>
建築年	S54～56	S44(低学年)、S57～58、H6(体育館)	S51(低学年)、S60～61	S52、S56(給食)	S63
主な改修歴	H19 体育館地震補強 H22～24 耐震・大規模	H13 低学年棟大規模 H27 体育館非構造耐震	H24 体育館非構造耐震	H9 高学年棟耐震補強・大規模 H10 特別教室棟・体育館大規模 H12 低学年棟大規模 H24 体育館非構造耐震	H26 体育館非構造耐震

## ◆ 再編基本計画(案)の概要

### 学校再編による通学区域の見直し

#### (1) 中学校（義務教育学校後期課程）

- ① 大町地区、平地区、常盤地区、社地区の行政区を一つの通学区域とする。
- ② 八坂地区及び美麻地区は、当面現行どおりとする。

#### (2) 小学校（義務教育学校前期課程）

- ① 大町地区、平地区の行政区を一つの通学区域とする。
- ② 常盤地区、社地区の行政区を一つの通学区域とする。
- ③ 八坂地区及び美麻地区は、当面現行どおりとする。

【新校開校時の児童・生徒数推計】

	R3	R5
一 中	221	/
仁 中	333	
新 校	/	511
合 計		554

	R3	R7
東 小	159	/
西 小	243	
南 小	255	
北 小	264	
大町/平 新校	/	518
常盤/社 新校		309
合 計	921	827

### 通学区域が変更された区域の市立学校の設置位置

#### (1) 中学校

- ① 現仁科台中学校(大町市大町 3759 番地)の位置とする。

#### (2) 小学校

- ① 大町地区、平地区の通学区域は、現第一中学校(大町市大町 4528 番地)又は現大町西小学校(大町市大町 4773 番地 3)のいずれかの位置で決定する。

※ 決定にあたっては、市民説明会及びパブリックコメントの意見等を踏まえ、8月末を目途に総合教育会議において決定する。

- ② 常盤地区、社地区の通学区域は、現大町南小学校(大町市常盤 3543 番地 1)の位置とする。

### 幼児教育から義務教育まで一貫した教育の実施

幼児教育から義務教育まで一貫した教育に向けて、「一貫した子ども理解と指導の継続性の実現」「一貫した体系的な教育と学習目標の設定」「カリキュラムや学習内容の体系的・系統性の確保」について検討を行う。

### 小規模学校の特色ある学校づくり

八坂小学校及び八坂中学校は、両校が相互に密接な連携を図るため、施設分離型の小中一貫教育校を推進する。美麻小中学校は、義務教育学校としての特色ある教育を継続する。

### 跡施設の活用

通学区域再編審議会の答申に基づいて、再編により使用されなくなる校舎及び校地については、地域の意見や要望を尊重しながら地域の活性化につながる利活用の方法を市全体で検討する。

## 新校開校に向けた具体的な進め方等

### (1) 新校の名称等

- ① 新校の名称は、新たな学校名を定めることとする。
- ② 新校の校歌・校章等は、新たに定めることとする。

### (2) 新校の開校時期

- ① 中学校 令和5年度を目途に開校する。
- ② 小学校 令和7年度を目途に開校する。

### (3) 通学路の安全確保等

国の基準である「小学校4km、中学校6km、通学時間はおおむね1時間を越えない」を基本としながら、学校再編により通学区域が変更になる児童や生徒については、通学の安全性に十分配慮する。また、遠距離通学となる児童や生徒については、電車、スクールバス等の利用により安全な通学を確保する。

### (4) 施設の整備

新校として活用する学校施設については、点検整備を行い、児童・生徒の良好な学習環境が図られるよう施設の充実を図る。

### (5) コミュニティ・スクール

新校開校にあたって、従前校と同様に学校運営に地域社会の参画を得ながら、地域に根付いたコミュニティ・スクールの取り組みを進める。

### (6) 児童・生徒等への配慮

- ① 学校間事前交流…再編による児童・生徒の不安等をできる限り軽減し、円滑に新たな学校生活へ移行できるよう、学校間の事前交流等を行う。
- ② 保護者負担等への配慮…保護者の一体感の醸成に配慮するとともに、再編に伴う通学区域の変更にあたり、制服等の使用に新たな負担が生じないように配慮する。



## ◆ 新校開校に向けた全体スケジュールの概要

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
中学校	新校名称等	[進捗バー]				
	施設整備等	[進捗バー]				
	再編準備委員会	[進捗バー]				
	教育課程編成	[進捗バー]				
						新校開校
小学校	新校名称等	[進捗バー]				
	施設整備等	[進捗バー]				
	再編準備委員会	[進捗バー]				
	教育課程編成	[進捗バー]				
						新校開校

## ◆ 参考資料（大町・平地区の小学校位置に関する資料）

### 1 新校開校時の大町・平地区の児童数・学級数の見込み

年 度	児童数	学級数	備 考
R7年度	518人	23（5）	全学年3学級。
R8年度	517人	22（5）	1年生のみ2学級。他学年は3学級。

※ 基準日は令和3年5月1日。学級数の試算は、35人学級。

※（ ）内の数は、特別支援学級数。令和3年4月の比率で試算。

### 2 現在の両施設の教室数

施設名	普通教室数	特別教室数
第一中学校	12	12
大町西小学校	26	9

※ 現況利用とは異なる。



### 3 想定される主な施設改修等

第一中学校	大町西小学校
① 低学年棟建築が必要である。 ② 既存校舎を小学校用に一部改修が必要である。	① 施設の老朽化対策が必要である。 ② 劣化度調査 <sup>*1</sup> が必要である。

※1 劣化度調査：鉄筋コンクリート造のコンクリートの強度や中性化試験等により構造体の劣化具合を調べること。

### 4 施設改修工事に関する事項

第一中学校	大町西小学校
① 在校児童がいないため、改修作業への制約は少なく、スムーズに施工できる。 ② グラウンドの一部を低学年棟建築に使用する。	① 在校児童がいる中での改修となるため、児童の安全に配慮しながら、余裕教室等を活用しての施工となり、工区を分けて施工することから、複数年の工期が見込まれる。 ② 騒音の大きな工事等は、授業の支障となるため、長期休暇を活用して行う必要がある。

#### 【学校再編に係る参考資料】

◇ 市ホームページ（<https://www.city.omachi.nagano.jp>）

- ・学校再編の取り組みについて
- ・市立学校通学区域の再編審議等の経過について
- ・大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会の報告書について
- ・大町市の義務教育に関するアンケート結果について